

2014年10月

2014年度「産業安全論」について

石油化学工業協会・一般社団法人 日本化学工業協会・石油連盟

2012年度から田村昌三東京大学名誉教授のご指導のもと、石油化学工業協会関係者が中心となって、広く一般の聴講者を対象に「産業安全論」を開講してきた。

一方、各業界団体では、最近の重大な産業事故発生を踏まえて、行政のご指導の下に、「産業保安に関する行動計画」策定などを行い、保安に関する教育の強化に取り組んでいるところである。

2014年度からは、これらの保安教育強化の一環として、石油化学工業協会・一般社団法人 日本化学工業協会・石油連盟の共催にて、3団体会員を対象に、官・学・産の講師にて石油・化学分野に関する「産業安全論」を開講する。

記

1. 開講の狙い

石油・化学分野における産業安全の体系的な講義と討論を重視した講座の運営、および人材交流、情報交流の場を設けることで産業分野における、将来の安全を理解できる経営者、管理者の育成、幅広い視野を持った安全の専門家育成を目的とする。

2. 開講日程及び講義場所

2014年10月7日(火)～2月3日(火)の祭日、年末年始を除く毎週火曜日の16:00～18:00に15回、住友不動産六甲ビル2階会議室にて開催。

3. 講座概要

我が国が世界を先導していくためには、安全に配慮したものづくりが重要である。「産業安全論」は、最近の産業安全問題の反省を基に、社会安全も視野に入れた、石油・化学産業の中核を担う経営者、管理者、幅広い視野をもった安全の専門家の育成を図るため、官・学・産が一体となって開講するプログラムである。

「産業安全論」では、まず、行政および産業界の立場から我が国の産業安全への期待、重要性を説明する。次いで、安全についてリスクベースで問い直し、最近の産業安全問題とその背景について考察し、安全文化を考慮した産業安全や現場力の強化を考えるとともに、産業界の先進的な安全への取り組みについて紹介する。

また、体系的な安全教育プログラムについて考え、産業界が実施している優れた安全教育プログラムを紹介し、共有化を図る。

最後は講義等で習得した知見を基に、石油・化学産業安全のあるべき方向について総合討論を通じて考える。

4. 運営

(1) 講義の対象及びレベル

石化協、日化協、石連加盟会員会社の保安担当課長および課長候補を対象とする。

(2) 受講者

受講希望のあった31名（定員30名）にて10月7日より開講する。

「産業安全論」構成

I. 石油・化学産業における安全

1. 石油・化学産業における安全（1）化学業界の実状と課題（10月7日（火））
（講師；日本化学工業協会 専務理事 西出徹雄）
2. 石油・化学産業における安全（2）行政からの期待（10月14日（火））
（講師；経産省化学課 茂木課長、経産省高压ガス保安室 矢島室長）

II. 安全の基本（講師；東京大学名誉教授 田村昌三）（10月21日（火））

III. 産業における安全問題と背景

1. 安全問題と要因（講師；コスモ石油㈱ 顧問 荒井保和）（10月28日（火））
2. 安全問題の背景（講師；東京大学名誉教授 田村昌三）（11月4日（火））

IV. 石油・化学産業における安全の向上

1. 安全文化を考慮した産業安全と現場力の強化（11月11日（火））
（講師；東京大学名誉教授 田村昌三）
2. 産業安全に向けての産業界の取り組み（11月18日（火））
（講師；石油化学工業協会 技術部長 岩間啓一）
3. 産業安全に向けての企業の取り組み（1）（11月25日（火））
（講師；三菱化学㈱ 顧問 梶原泰裕）
4. 産業安全に向けての企業の取り組み（2）（12月2日（火））
（講師；東燃ゼネラル石油㈱ 執行役員 渡辺 哲）
5. 産業安全に向けての企業の取り組み（3）（12月9日（火））
（講師；東レ㈱ 常任理事（環境・安全） 船曳長武）

V. 安全教育・啓発の体系化と実践

1. 体系的安全教育プログラムと社会における安全環境の構築（12月16日（火））
（東京大学名誉教授 田村昌三）
2. 産業界における安全教育・啓発の取り組み（1）（1月13日（火））
（講師；三井化学㈱生産・技術本部生産・技術企画部技術研修センター長 木原敏秀）
3. 産業界における安全教育・啓発と共有化（2）（1月20日（火））
（講師；山陽技術振興会副会長、人材育成室室長 池上正）

VI. 総合討論

1. テーマに基づきグループ討論（1月27日（火））
2. 討論結果の発表（2月3日（火））